

地域おこし協力隊が見つけた!

しらたかの鉄人!達人!



①



③



②

① 胴長靴を履き、網を手にして養殖池で泳ぎ回る岩魚を慣れた手つきで追い込む一久さん ② きれいで冷たい流水中にのみ自生する梅花藻(ばいかも) ③ 池からあげた2年物の岩魚。日の光を浴びてキラキラと輝いて見える



「岩魚の養殖」

梅津 一久さん (十王・68歳)

「みんなの笑顔をつくるために」

白鷹山からの冷たい山水が注ぎこむ自然豊かな萩野の山の中。ここで岩魚を養殖しているのが一久さんです。

夏でも15度以下で、梅花藻(ばいかも)も自生するほどきれいな山からの水を使い、岩魚を養殖して「大人も子どもも遊べる秘密基地のようなところになろう」と5〜6人の仲間たちが集まって村松会という会を発足したのが始まり。今は一人で養殖場の管理をしており、ときどき水を抜いて溜まった泥を取り除いたり、毎日岩魚にえさを上げたりしているそうです。

岩魚の稚魚は、2年に一

子どもたちに大人気の「魚のつかみ取り」で使われる岩魚。手間暇かけて大事に育てられているんですね。お土産にとれたての岩魚をいただき、捌き方も教えてもらいました。その夜、焼いて頭からかぶりついた岩魚は、身がホクホクでとてもおいしかったです。

度くらいにおよそ3千匹を小国町から仕入れ、池に放します。しかし、サギやイタチなどの獣により残るのは半分ほどだそう。養殖した岩魚は「コミセン事業などで「魚のつかみ取り」として子どもたちの笑顔をつくっています。

取材に伺った日、蚕桑コミセンからの依頼でおよそ50匹ほどの岩魚を養殖池から出す作業を見せていただきました。あがった岩魚は、きれいな水で育ったおかげでキラキラと輝いて見えました。

「秘密基地」には、おいしい空気ときれいな水、そして一久さんの夢があります。

地域おこし協力隊
遠藤真弓さん



▼今年も荒砥高校の就業体験で、広報誌づくりを体験してもらいました。体験を終えた生徒の感想を紹介します。

▽白鷹町のさまざまな所へ行き、広報誌に掲載する写真を撮影したり、取材をしたりと普段の学校生活では経験できないとても貴重な体験をすることができました。初めて行った場所もあり、自分の住んでいる白鷹町についてさらに深く知ることができました。今回学んだことをこれからの学校生活に生かしていきたいです。(あおき ころ)

▽白鷹町の各地に行って写真を撮ったり、取材をしたりと普段あまりできないことができたのでよかったです。また見るもの全てに新鮮味を感じました。さらに、取材に行く先々で、コミュニケーション能力の大切さを改めて実感させられました。今回体験したことを忘れず、これからの学校生活に生かしていきたいです。(すずき まりん)

▼仕事の魅力が伝わるように教えるのは難しいですが、この就業体験を通して、二人の今後の学校生活、進路選択がより良いものになってくれたらうれしいです。(てづか)

SELF JUDGE
編集後記